

発達障害のある人のライフ ステージを通した OT のかわり

特集にあたって

OT は、自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症、発達性協調運動症等の発達障害がある子どもや大人の治療や支援にかかわってきた。近年、発達障害児者への作業療法ニーズは高まってきており、今後さらにそれは高まるであろう。発達障害は小児期から行動や対人関係等の問題がみられるが、その後のライフステージでもそれに基づく社会適応の困難を抱えることが多い。そのため、私たちは発達障害がある子どもが各ライフステージでどのような問題にぶつかり、どのようなニーズを抱えるのかを把握し、それに対する OT の役割について考える必要がある。そこで、今回「発達障害のある人のライフステージを通した OT のかわり」と題し、発達障害児者にかかわってきた医師と OT および、これまで OT に支援を受けてきた発達障害者の保護者に、このテーマにそってご執筆をいただいた。

本特集を通して、発達障害児者の生涯を通した支援の現状と課題について、多くの読者にご理解いただきたいと願っている。今後の発達障害児者への作業療法サービスを充実させる取り組みのきっかけになれば幸いである。

(岩永竜一郎)

企画担当

岩永竜一郎（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科，作業療法士）

宮崎明美（児童発達支援センター みどり学園，作業療法士）

香山明美（宮城県立精神医療センター，作業療法士）